

県内各地域の地域づくりの考え方

尾張・西三河・東三河3地域における広域的な視点に立った地域づくり

各地域が共通して抱える課題への対応や広域交通基盤の整備・活用等の観点から、行政区域にとらわれない、より大きなエリアを単位とした広域的な地域づくりが必要。

木曾川・矢作川・豊川の3つの河川を軸に、歴史、文化、生活、産業経済等の強い結びつきを持つ、尾張・西三河・東三河の3つの大きな地域ごとに、めざすべき将来像と主な政策を示していく。

県内外の地域間連携

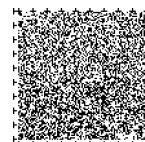
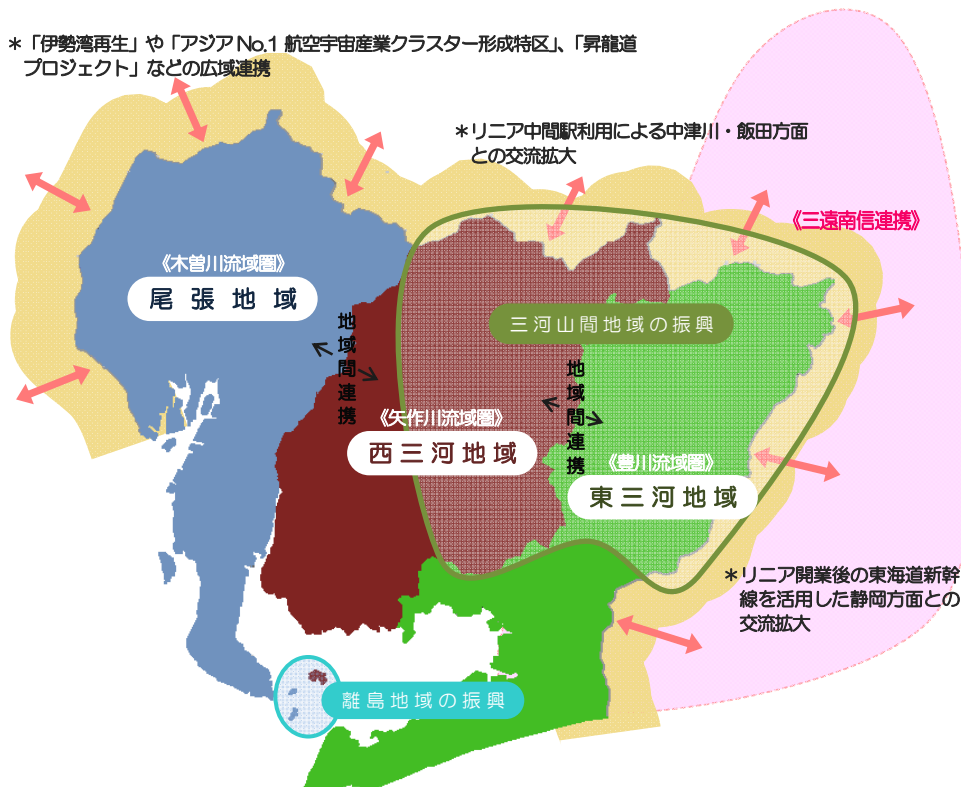
3つの地域が、それぞれの役割・機能を果たしつつ、地域間の連携・協力をより一層密にしていくとともに、「三遠南信連携」をはじめとする県域を越えた連携・協力の取組の進展や、リニア開業に伴う広域交通ネットワークの形成等を見据え、県際間をはじめ、県域を越えた地域間連携・協力を進めていく。

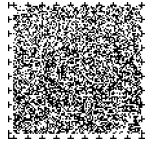
三河山間地域等の振興

厳しい地理的条件のもと少子高齢化や人口減少が急速に進む三河山間地域や三河湾の離島については、豊かな自然や魅力的な観光資源を有し、県土保全、水源の涵養、地球温暖化防止、木材や水産物の供給など重要な役割を担っており、県全体で支えていくことが必要。

特に三河山間地域については、新東名高速道路や三遠南信自動車道などの広域幹線道路の整備等を生かし、暮らしを支える生活基盤づくりを着実に進め、豊かな自然環境と魅力的な地域資源を生かした新しいライフスタイルを実践できる地域づくりに取り組んでいく。

*「伊勢湾再生」や「アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」、「昇龍道プロジェクト」などの広域連携





地域の現状と課題

- 世界の玄関口という役割に加え、リニア開業によってさらに高まる交流拠点性を生かし、その整備効果を中京大都市圏全体に波及させていくことが必要。
- 中部圏や東西観光の中継拠点として、都市と自然が融合した独自の魅力と、都市的アミューズメント機能や、歴史と文化に培われた地域の魅力にさらに磨きをかけ、新たな賑わいを創出していくことが必要。
- リニア開業の効果と、充実が進む広域交通ネットワークや学術研究機能を生かし、名古屋の高次都市機能強化とあわせ、地場産業から航空宇宙産業まで、幅広いモノづくり産業など、地域に集積する多様な産業の高度化を図っていくことが必要。
- 2015 年をピークとする人口動向を踏まえつつ、大都市地域が持つ利便性を生かした、質の高い快適な暮らしを支える基盤づくりを進めていくことが必要。
- 南海トラフ巨大地震における甚大な津波被害や建物等の倒壊、局地的な集中豪雨による浸水被害等が懸念されており、広大な海拔ゼロメートル地帯という地理的な特性も踏まえ、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していくことが必要。

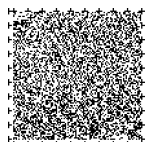


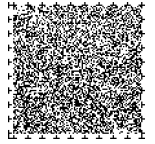
めざすべき将来像

尾張地域には、首都圏から中京圏に及びリニア大交流圏の西の拠点となる「中京大都市圏」の中核として、高い求心力と世界的な交流拠点性を持つとともに、リニア開業の効果を圏域全体に波及させていくことが求められる。

世界につながる玄関口としての機能を高めつつ、大都市の多様な魅力や次世代産業の育成、利便性の高い居住環境の形成を通じ、世界に開かれた、人・モノ・情報が活発に行き交う大都市地域をめざす。

リニア開業のインパクトを受け止め、世界に開かれた、人・モノ・情報が活発に行き交う大都市地域





① 世界とつながる玄関口としての機能強化

◇高次都市機能の集積

- *名古屋駅のスーパーターミナル化の促進
- *名古屋駅周辺のコンベンション施設やビジネス支援機能の拡充など高次都市機能の集積の促進

◇中部国際空港の機能強化

- *LCCの受入環境の整備や二本目滑走路をはじめとする機能強化(完全24時間化)

◇港湾機能の強化

- *「国際産業ハブ港」の実現に向けた名古屋港のコンテナターミナル等貨物取扱機能強化

◇広域交通基盤の整備

- *名古屋環状2号線、西知多道路の整備促進

② 大都市名古屋をはじめ、各都市の魅力を生かした地域の賑わいの創出

◇名古屋港の賑わいの創出

- *「名古屋市国際展示場」の機能強化や大規模集客施設の整備促進

◇芸術・文化、スポーツ大会等を生かした魅力づくり

- *「あいちトリエンナーレ」の継続開催 *ポップカルチャー等の文化発信 *産業観光や武将観光の推進
- *「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」などスポーツイベントの開催支援

◇地域の賑わいの創出

- *中部臨空都市の商業施設等の誘致 *「愛・地球博記念公園」の野外音楽施設等の整備

③ 次世代産業の育成・強化と地域産業の活性化

◇次世代産業や都市型産業の育成

- *「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」の推進 *ITベンチャー企業の育成

◇地域産業の高度化

- *「あいち産業科学技術総合センター」における繊維産業や窯業などの製品開発の技術支援

◇企業立地の推進

- *企業立地促進法に基づく「西尾張地域基本計画」及び「東尾張地域基本計画」に沿った企業立地の推進

◇農林水産業の振興

- *都市近郊農業の6次産業化・農商工連携の推進 *ノリやアサリの増殖技術の開発など水産業の振興

④ 大都市地域としての利便性を生かした、質の高い快適な暮らしを支える基盤づくり

◇域内交通基盤の整備

- *名古屋からの放射状道路や環状道路の整備 *国道41号の6車線化

◇都市基盤・生活環境等の整備

- *流域下水道の整備 *土地区画整理事業の推進

◇拠点機能を担う医療・福祉施設等の整備など地域医療の充実・強化

- *「薬草園」の整備 *「あいち小児保健医療総合センター」の3次救急施設の整備
- *「心身障害者コロニー」の再編整備 *「城山病院」の全面改築 *離島のへき地医療対策

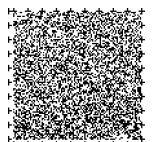
⑤ 災害に強く安心・安全に暮らせる地域づくり

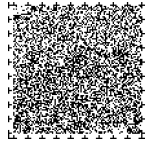
◇地震防災対策の推進

- *基幹的広域防災拠点の整備 *社会インフラの耐震化や津波対策の強化
- *緊急輸送を担う道路網の整備 *名古屋港の防災機能強化と港湾BCPの策定

◇治水対策の推進

- *日光川の水閘門の改築 *海部地域等の排水機場や排水路などの整備
- *新川水系の総合的な治水対策、庄内川水系や日光川水系等の河川改修





地域の現状と課題

- 本県の産業経済を牽引する世界的なモノづくりの拠点として、研究開発機能の強化や次世代産業の育成・振興などを通じて、モノづくり産業の中枢性を維持・強化していくことが必要。
- 矢作川の上流連携による流域管理の取組や、モノづくり産業における優れた環境技術の集積など、環境に関する先進性を生かした地域づくりを進めていくことが必要。
- 最先端のモノづくりから地場産業に至る多様な産業観光資源や、数多くの歴史的・文化的な地域資源等を生かしつつ、地域の魅力をさらに高めていくことが必要。
- リニア開業の効果の波及も見据えながら、活発な産業活動等を支える交通基盤の整備を進めるとともに、当面の人口増加を受け止める都市機能の強化と質の高い生活基盤の整備が必要。
- 南海トラフ巨大地震における甚大な津波被害や建物等の倒壊、局地的な集中豪雨による浸水被害等が懸念されており、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していくことが必要。

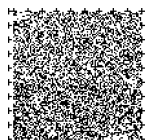


めざすべき将来像

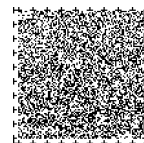
西三河地域には、世界的なモノづくりの拠点として、本県の成長エンジンとしての役割を担うとともに、活発な産業活動と質の高い生活空間を両立する地域として発展していくことが求められる。

モノづくりの中枢性を高めながら、活発な産業活動と両立する持続可能な地域づくりを進めるとともに、多様な地域資源を生かした魅力の創造・発信、地域内外を結ぶ交通基盤や安全で質の高い快適な暮らしを支える生活基盤の整備を通じ、次世代のモノづくりと先進的な環境の取組が調和した活力ある地域をめざす。

愛知の成長を牽引する次世代のモノづくりと先進的な環境の取組が調和した活力ある地域



地域づくりの方向性と主な政策



① 次世代のモノづくりを牽引する産業の中核性の維持・強化

◇技術革新を支える研究開発機能の強化

- *「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」の推進
- *「知の拠点あいち」における研究開発の推進

◇次世代産業の育成・振興と地域産業の高度化の支援

- *環境・新エネルギー、健康長寿産業の育成・振興
- *モノづくり中小企業の高度化や新規事業展開の支援

◇企業立地の推進

- *企業立地促進法に基づく「西三河地域基本計画」に沿った企業立地の推進

② 産業と自然が調和する環境先進地域の形成

◇環境やエネルギーをキーワードとしたまちづくりの促進

- *「豊田市低炭素社会システム実証プロジェクト」の普及拡大 *次世代自動車の普及に向けた充電インフラや水素ステーションの整備促進

◇再生可能エネルギーの活用・普及

- *下水汚泥のバイオマス利用 *羽布ダムや明治用水等を利用した小水力発電の導入

◇自然環境の保全・再生

- *「三河湾環境再生プロジェクト」の推進 *矢作川流域の上下流連携の支援

③ 産業や歴史、自然等を生かした地域の魅力の創造・発信

◇産業観光・武将観光の推進

- *自動車産業や地場産業等を生かした産業観光 *徳川家ゆかりの史跡を生かした武将観光

◇歴史や文化、自然等を生かした観光振興

- *足助の歴史的街並みや佐久島の現代アートなどを生かした観光振興

◇農林水産業を生かした地域の活性化

- *6次産業化・農商工連携の推進 *ウナギの資源保護対策やアサリの漁場整備など水産業の振興
- *鳥獣被害防止対策の推進

④ 活発な産業活動と質の高い快適な暮らしを支える基盤づくり

◇広域交通基盤の整備

- *新東名高速道路の整備促進とアクセス道路の整備 *名豊道路、衣浦豊田道路等の整備促進

◇港湾機能の強化

- *衣浦港港湾計画に基づく港湾機能の強化

◇都市基盤・生活基盤等の整備

- *土地区画整理事業の推進 *「油ヶ淵水辺公園」の整備 *「第二青い鳥学園」の移転改築

◇山間地域や離島の生活基盤の確保

- *定住促進と集落活動の支援 *バス路線等生活交通の確保 *へき地医療対策

⑤ 災害に強く安心・安全に暮らせる地域づくり

◇地震防災対策の推進

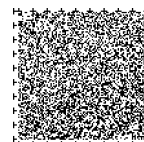
- *社会インフラの耐震化や津波対策の強化 *緊急輸送を担う道路網の整備 *衣浦港の港湾BCPの策定

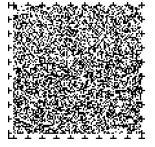
◇治水対策の推進

- *境川、猿渡川水系の総合的な治水対策、矢作川水系等の河川改修

◇山間地域の防災対策の推進

- *治山事業の推進 *土砂災害対策の推進





地域の現状と課題

- 人口減少がさらに加速すると見込まれる中、交流人口を増やし、地域のさらなる活性化に結び付けていくためには、豊かな自然や多彩な観光資源を最大限に生かし、地域の魅力をより一層高めていくことが必要。
- 農工商のバランスのとれた産業構造を有し、全国有数の製造品出荷額や農業産出額を誇る地域であり、産業の多様性や産学行政の連携力を生かしながら、地域の産業活力をより一層高めていくことが必要。
- 今後整備が進む新東名高速道路や三遠南信自動車道などの広域交通基盤等を生かし、地域の産業や暮らしを支える社会基盤を効果的・効率的に整備していくことが必要。また、過疎化や高齢化が著しい奥三河について、持続可能な地域社会を支える生活基盤の確保が課題。
- 南海トラフ巨大地震における甚大な津波被害や建物等の倒壊、局地的な集中豪雨による浸水被害、山間部の土砂災害等が懸念されており、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していくことが必要。
- 東三河県庁、三遠南信の取組が進んできており、観光、産業経済、基盤整備、環境、防災など幅広い分野で、こうした強いネットワーク等を生かし、地域力をより一層高めていくことが必要。

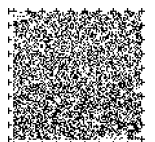


めざすべき将来像

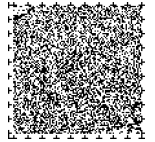
東三河地域には、遠州や南信州との交流の要となる愛知の東の拠点として、内在するポテンシャルを最大限に発揮し、域内外の連携を通じて、相互に補完し合い、相乗効果を引き出すことにより、地域力をより一層高めていくことが求められる。

東三河県庁のネットワークを軸にさらなる連携強化を図りながら、「ほの国」の魅力の創造・発信、農工商のバランスのとれた多様な産業の育成・強化を進めていくとともに、安全で質の高い生活環境の整備と奥三河の振興を通じ、都市と自然の近接性を生かした豊かさが実感できる暮らしと力強い産業が展開する地域をめざす。

「ほの国」の魅力あふれる多彩な地域資源を生かし、豊かさが実現できる暮らしと多様な産業が展開する地域



地域づくりの方向性と主な政策



① 豊かな自然をはじめ、地域資源を生かした東三河の魅力の創造・発信

◇広域観光エリアとしての魅力の向上・発信

*「ほの国ブランド」の定着 *「新城ラリー」の開催支援 *「花祭」の保存・伝承

◇奥三河の交流居住の推進

*「愛知県交流居住センター」を核にした都市部住民との交流イベントの開催

◇豊かな自然の保全・再生

*「三河湾環境再生プロジェクト」の推進 *伊良湖休暇村「デューンガーデン」(仮称)の整備

② 地域の特徴を生かした多様な産業の育成・強化

◇次世代産業の育成・振興

*次世代自動車産業、健康長寿産業、新エネルギー産業の育成・振興

◇企業立地の推進

*企業立地促進法に基づく「東三河地域基本計画」に沿った企業立地の推進
*市町村と連携した広域交通基盤の周辺地域等における新たな企業余地の開発

◇地元大学や(株)サイエンス・クリエイトなど産学行政の連携強化

*新産業創出の支援 *「食農産業クラスター推進協議会」を核とする農商工連携の推進

◇農林水産業の振興

*植物工場の実証支援 *三河材の利用促進 *六条潟の保全・利用 *鳥獣被害防止対策の推進

③ 地域のポテンシャルを引き出し、産業と質の高い快適な暮らしを支える基盤づくり

◇広域交通基盤の整備

*三遠南信自動車道、名豊道路の整備 *「東三河1時間交通圏」の確立に向けた道路網の整備

◇港湾機能の強化

*三河港港湾計画に基づく港湾機能の強化

◇再生可能エネルギーの活用

*下水汚泥や間伐材等のバイオマス利用 *メガソーラー事業の推進

◇奥三河の生活基盤の確保

*定住促進と集落活動の支援 *バス路線等生活交通の確保

◇地域医療の充実・強化

*山間地域のへき地医療対策 *周産期医療体制の強化

④ 災害に強く安心・安全に暮らせる地域づくり

◇地震防災対策の推進

*社会インフラの耐震化や津波対策の強化 *緊急輸送を担う道路網の整備 *三河港の港湾BCPの策定

◇治水対策の推進

*豊川水系や三河湾に注ぐ二級河川等の改修

◇山間地域の防災対策の推進

*治山事業の推進 *土砂災害対策の推進

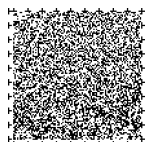
⑤ 東三河県庁や地域の各主体が一体となって進める地域力と連携力の強化

◇東三河県庁を軸とした連携の強化と「東三河振興ビジョン」の推進

*東三河県庁と市町村、地元経済団体等との連携強化
*「将来ビジョン」及び「主要プロジェクト推進プラン」の推進

◇三遠南信連携の推進

*「三遠南信地域連携ビジョン」の推進



VI ビジョンの推進に当たって

<多様な主体との連携・協働>

行政ニーズが拡大・多様化していく中、県だけではなく、市町村や企業、NPOなど様々な主体との連携が求められる。また、地域の様々な課題に対応し、地域の活力を上げていくためには、全員参加の社会づくりとともに、「共助」の社会づくりが必要となる。

このため、NPOやソーシャルビジネスの育成はもとより、そうした主体と行政との協働の深化、企業等との連携強化などに取り組むとともに、県民の様々な地域活動への参加の促進等を図っていく。

<行財政改革の取組を踏まえたビジョンの推進>

ビジョンの推進に当たっては、行財政改革の取組も踏まえながら、限られた財源や資源を最大限に活用し、政策の実行を図っていく。

<年次レポートによる的確かつ柔軟なビジョンの進行管理>

毎年度、年次レポートを作成し、ビジョンに示されている政策の進捗状況や新たに取り組むべき課題の把握など、ビジョンのさらなる充実を図っていくとともに、社会経済の変化に応じたビジョンの点検・見直しなどを行っていく。

